

令和 2 年 5 月 31 日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K17472

研究課題名(和文) Pre Death期のNICU入院児へのケアにおける看護師の精神的負担と要因の解明

研究課題名(英文) Elucidation of Associated Factors of Psychological Distress among NICU Nurses on Nursing babies in Pre Death term on NICU

研究代表者

北尾 真梨 (KITAO, MARI)

神戸大学・保健学研究科・保健学研究員

研究者番号：80778811

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、治療に関する明確な倫理的意思決定がなされないまま長期(出生から1か月以上)にわたり状態が変化しない、もしくは緩やかに悪化し、死亡退院に至った児をケアする看護師のPre Death期における精神的負担とその要因を明らかにすることであった。平成29年度には対象となる看護師にインタビューを行い、Pre Death期での看護師のケアと精神的負担の有無、その要因について8名から聞き取りを行った。平成30年度・31年度にはデータの解析を行い、精神的負担の要因の抽出を行った。今後、引き続き分析することで現場に還元できる方法について検討を行っていく。

研究成果の学術的意義や社会的意義

Pre Death期における看護師の精神的負担とその要因を明らかにすることで、看護師のメンタルケア及び職務負担の軽減に働きかけることが出来るマニュアルの作成や、現場に還元できる方法について検討を行う。子どもの看取りを行うNICU看護師への精神的負担に関する研究は少なく、今回の結果をもとにしてさらに研究を進め、医療現場で実際に使用することができるプログラムを構築していく。これらを行うことで、NICU看護師の離職率の低下や、強い精神的負担による看護ケアの質の低下を防ぐことができると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to elucidate about the associated factors of psychological distress among NICU nurses caused by nursing babies in Pre Death term on NICU who did not ameliorate or gradually deteriorated their condition in a long period (more than 1 month after birth) without clear ethical decision-making about their treatment and died in the end. In 2017, we interviewed 8 NICU nurses about nursing care to babies of Pre Death term, and about associated factors of psychological distress among NICU nurses. In 2018 and 2019, we analyzed the data and extracted the factors of psychological distress. With the insights gained in this research, we are going to study the methods that can be used in clinical nursing through continuous analysis.

研究分野：NICU

キーワード：NICU 看護師 ストレス 精神的負担 子どもの死

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

・新生児死亡と看取りについて

近年、医療技術の発展により、重篤な疾患を持った児や超低出生体重児などの救命が可能になってきている。2014年の日本の新生児死亡率(出生1000対)は0.9、乳児死亡率(出生1000対)は2.1、周産期死亡率(出産1000対)においては3.7と世界トップクラスを維持している。一方で、胎児や新生児の人権と尊厳を守る最善の医療とは何かが問われる時代となり、積極的治療と愛護的ケア双方の視点から、倫理的に子どものケアを考える機会が増加してきている。

・看護師のストレスについて

現在、新生児死亡の98%はNICUで発生しているという報告がある。また、死にゆく児のケアや看取りは、それらを提供する援助職にも大きなストレスを与える。このとき、十分な理解や経験を伴わない看取りの経験は、看護師にとっての大きなストレスになりうる。職務におけるストレスの蓄積はマイナスの身体症状として表れ、身体的・精神的疾病の原因となり、離職を余儀なくされることもある。これらは医療現場における問題の一つとなっている。

・死にゆくときのケアの分類について

De Lisle-Porter and Podruchny は、新生児への看取りのケアの段階を以下の3つの時期：(1)Pre Death 期、(2)Active Dying 期、(3)After Death 期に分けた。国内では(2) Active Dying 期の死にゆくときのケア、(3) After Death 期の死亡後のケアについては先行文献も多く、これらの時期の看取りケアについて手順化されている施設もあり、また病院内外での研究会も多い。しかし(1) Pre Death 期の死亡前のケアについては児の疾患が多岐に渡り、さらに児へのケアには個別性が求められることから、ケアの手順化や看護師への教育プログラムとして提供することが困難であり、実際にマニュアルは存在しない。また、(2) Active Dying 期と(3) After Death 期以上に(1) Pre Death 期、死亡前では多くの看護師が児と関わることが想定される。Pre Death 期(死亡前の時期)のケアで特徴的なものが治療に関する倫理的な意思決定における問題である。しかしこれまでの研究では、看護師と両親とのコミュニケーションや倫理的な意思決定をどのように支えるかということが大きな比重を占めており、ケアを提供する看護師の精神的負担についての研究は少ない。

2. 研究の目的

本研究では、(1)Pre Death 期の児の看護経験を持つ看護師を対象に、

(1)Pre Death 期の看護における精神的負担とその要因(倫理的な意思決定、倫理的な意思決定への参加、治療方針への自身の意見の反映など)を明らかにする。

それらの相関関係を明らかにし、さらに

(2)Active Dying 期と(3)After Death 期のケアにおける精神的負担とその要因とを比較することで、(1)Pre Death 期の精神的負担の度合いをより明確に評価する。

本研究期間内に、以上の2点を明らかにする。

これまでの研究では、看取りの時期の3段階のうち、(1) Pre Death 期では治療に関する倫理的な意思決定に関するサポートなど両親への対応にのみ焦点が当てられていた。本研究は、これまで学術的に注目されてなかった(1)Pre Death 期における看護師の精神的負担、中でも児と向き合いケアをすることから生じる精神的負担に着目した点が特色である。

倫理的な意思決定を行う時期の見極めが困難な状態である児は、(1) Pre Death 期が長引くことが予想される。少しずつ状態が悪化する児へケアを提供する看護師の精神的負担の高さは容易に想像が可能であるが、その要因にアプローチできる方法を検討する試みはこれまで行われていなかった。本研究の成果は、看護師のメンタルヘルスケア及び職務負荷の軽減に寄与し、ひいては児や家族に対する質の高いケア提供のための現場でのマニュアル作りに貢献できる。また、看護師のみならず児とかわるすべての職種への適応が期待できる。

3. 研究の方法

平成29年度は、看護師経験が10年以上あり、NICUで病状が芳しくないまま長期(出生から1か月以上)にわたり状態が変化しないもしくは緩やかに悪化し、死亡退院に至った児を看護したことがある看護師10名程度を対象のプレインタビューから質問紙を完成させ、全国に配布する。

1. プレインタビュー

看護師10名程度にプレインタビューを行う。インタビュー内容はこれまで(1)Pre Death 期に病状が芳しくないまま長期(出生から1か月以上)にわたり状態が変化しないもしくは緩やかに悪化し、死亡退院に至った児に看護ケアを提供したことがあるか、対象児の病態、看護ケアの具体的な内容、(1) Pre Death 期に看護ケアを提供する際の精神的負担の有無とその原因、その時の看護体制、倫理的な意思決定がなされるまでの医師と看護師の意識、家族の意思の確認について、の6点である。

2. 質問紙の作成

プレインタビューの内容をもとに全国調査用の質問紙を作成する。

4. 研究成果

平成29年度には対象となる看護師にインタビューを行い、Pre Death 期での看護師のケアと精神的負担の有無、その要因について8名から聞き取りを行った。平成30年度・31年度にはデー

夕の解析を行い、精神的負担の要因の抽出を行った。
今後、引き続き分析することで現場に還元できる方法について検討を行っていく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 MARI KITAO , NORIKO SETOU , AKIO YAMAMOTO , and SATOSHI TAKADA	4. 巻 64
2. 論文標題 Associated Factors of Psychological Distress among Japanese NICU Nurses in Supporting Bereaved Families Who Have Lost Children	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Kobe Journal of Medical Sciences	6. 最初と最後の頁 11-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://www.med.kobe-u.ac.jp/journal/contents/64/E11.pdf	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 北尾真梨、瀬藤乃理子、高田哲
2. 発表標題 遺族支援における NICU 看護師の負担感について
3. 学会等名 ハイリスク児フォローアップ研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----